

発行日 平成 26 年 9 月 18 日
 発行 笠間市社協東支部
 編集 広報委員会
 印刷 有限会社 テクノプラン

やさしさで
 老後を包む
 地域ケア



支部だより ひがし

内桶正夫氏 支部長に就任

東支部松田前支部長の後任に鴻巣一区の内桶副支部長が、また空席になった副支部長には柿橋北区の綿引隆信氏が就任することになりました。両氏の任期は平成二十七年三月末までです。

健康で安全安心な地域づくり

新支部長 内桶 正夫



新年度を迎え、ご挨拶を申し上げます。前支部長松田良一氏が任期半ばで都合により辞任され、後任として、指名されました。今まで築かれた路線を守りながら時代に即応しつつ役員一同努めて参ります。

少子高齢化が進むなか、社協の役割は、大きくなっており、二十六年度事業計画のなかにも登校時の通学路の立哨活動（ハケ所で実施）、下校時の青色防犯車パトロールがあります。本年度より、回数も増え道路横断の誘導もあわせて、安全に登下校できる様に、引き続き見守りを続けて

行きます。民間交番あさひと連携、ご指導をいただきながら情報交換もしつつ、友部小、大原小地域の巡回を継続します。

高齢者の健康増進、クロツケー、グラウンドゴルフ大会の充実。各地区毎にバスでの交流会また食事も実施しています。皆さん一緒に出かけませんか。心豊かにさらに健康になれる様、取り組みます。その他、地域の伝統行事、三世代の集い等の事業もあり、引き続き協力して参ります。人生の大先輩の知恵とパワーを還元していただき、奉仕の心を忘れず、皆様のお力添えをいただきながら努めてまいります。

最後になりますが、前支部長に対しまして、心から感謝いたします。



わが町の自主防災は(第2回)

11本の井戸にガチャポンプ設置

内郷区長 菱沼 征一氏(談)



ガチャポンプと水運搬用ポリ袋

平成二十五年、飯田、内郷、西内郷区でそれぞれ自主防災組織を立ち上げ、三つの組織の協議会を作り、災害発生時の協力体制を整えた。

東日本大震災時に何がいったん困ったかを検討した結果、生活用水の確保、特に水洗トイレの水の確保が重要な問題だったことが明らかにした。

幸いに三区には庭の水まき等で現役の井戸、使用可能な井戸が残されているのでそれを活用することとした。

自家発電機を購入し、停電しても井戸ポンプを稼働することも考えたが、現在のポンプの耐久性、発電機の燃料交換、メンテナンス等の手間、費用を考えると、かえって最も簡便な方法、手動式ガチャポンプが一番便利であり低コストとなるとの結論に達した。

そこで飯田区3基、内郷区3基を利用しやすい井戸に常設、西内郷区は5基を区倉庫に保管、設置の実習を行なうて災害時、情勢に応じ適切な井戸に設置できるようにした。

さらに水の運搬のため、水運搬専用のポリトルポリ袋を常備し、女性、児童でも水の運搬ができるようにした。費用はすべて市からの助成金でまかなうことができた。写真は内郷区内に設置したガチャポンプを示します。

クロツケー 大会開催

東支部クロツケー大会が柿橋グラウンドで六月二日に開催され、十チーム三十人が熱戦を繰り広げました。「西内郷ほのぼの会」Aチームが見事優勝しました。



《優勝チーム》





2014/05/28

長さ 600m の坑道は酒蔵に

保存されて異様に光る竜の眼が、いつまでも消えることがありません。こうして午後四時予定どおり全行程を終り無事散会しました。関係者のみなさんに深謝いたします。

戦時中の坑道が酒蔵に

宮前・鴻巣ブロックの「ミニサロン」 鴻巣2区 川俣 貢

長は六〇〇米、現在は清酒の貯蔵庫として使用され、酒びんがびつとり保存されています。

「ミニサロン」は五月二十八日好天に恵まれての出発でした。行き先は那須烏山市で、最初の見学地「ほら穴の酒蔵」に着いたのは午前十時でした。この「ほら穴」は第二次世界大戦の末期に掘られたもので、何んと戦車を製造する会社が手掛けたものだそうです。坑道の総延長は六〇〇米、現在は清酒の貯蔵庫として使用され、酒びんがびつとり保存されています。

この酒蔵庫を見た後は「試飲」のできる「島崎酒蔵」のお店でした。ガラスの盃を並べて冷酒が振舞われたから、是非お土産にと長蛇の列が続きました。

昼食は「松月庵」という割烹風のそば店で、舞台つきの大広間にくつろいで、おいしく戴きました。

午後は烏山と言え「山あげ」と一番に名をあげる日本一の出し物を舞台風に再現した会場で、一角には、豪華な山車が陳列されていました。

この後は「竜門の滝」の見物でした。高さ二十米、巾六十五米の大滝を屋内から眺められるという珍しいもので、説明によると滝つぼから巨大な怪物が現れたことからこの名がつけられたとか、滝の傍には「民芸ふるさと館」が新設され、供えて竜の像が保存されて異様に光る竜の眼が、いつまでも消えることがありません。

常磐線生まれて125年 (その1)

笠間市内に鉄道文化財? 柿橋北区 市川 惣三郎

常磐線は、一八九八年(明治三十一年)日暮里から岩沼(宮城県)まで三四・一キロメートルが開通した。当初は、水戸と東京を結ぶため水戸鉄道が、水戸から小山へ至る路線(現在の水戸線)が一八九九年(明治二十二年)開通。以後水戸を基点として南北に別れ部分的に工事が進められて六年後に南北が繋がった。

友部駅を岩間へ向って約二キロメートル位で涸沼川を渡る。ここに矢野下鉄橋(約三十メートル位)を架設した。当時は単線だった。(現在上



築119年の矢野下鉄橋



手芸が私の生きる力に

南友部原店 須藤 嘉

縁があつて南支部で暮らすことになり、何か仕事をするとき、家でする仕事がよいと姑に言われて、和裁を習い始めました。当時は結婚の支度と言うと、まだまだ和服の必要が多く「口コミ」で、ご近所の方々と和服の仕立てがとぎれることなく頂きました。それも年と共に

自分の負担となり、心は小物へと関心が向き、「布草履」や着物のリフォーム等に進み、その内「つるし雛」や「干支」の小物が心がひかれてグループに入り、それらを作るようになりまし。

主人を亡くし、その後、わずかに四年目に長女を亡くし、下の娘は嫁ぎ、日中一人で家にいると、主人や特に亡き娘のことを思い出さない日はなく、一人では居られない思いでした。

そのような時、華やかな模り専用)以後百十九年保守整備され関東大震災と東日本大震災にも耐えて日夜百本以上の列車が通過している。電車で渡ると一瞬の間だ。取替工事無く現役鉄橋は、常磐線の有形文化財に値するものではないだろうか?

様の小布で可愛らしい物を作っている時は、一時でも亡き娘のことは忘れて夢中で縫っていられた。

それらが仏壇のある部屋一杯に飾りつけてあるのを見た方がお世話下さって、市の図書館で個展となり、多くの方々に見て頂きました。そのおかげで新しいお友達ができ、何かとお電話を下さったお誘いを受けて、本当にありがたい幸せな思いをしております。大勢の皆様から感謝申し上げます。

編集あとがき

今年の夏は例年にも増して異常気象によるゲリラ豪雨が頻発し、全国各地に甚大な被害をもたらしました。災害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。

自然災害は思わぬ時期に襲います。いざという時に備えて普段からの防災準備が大切です。

広報ひがしでは前号から、東支部各地区の防災組織の状況をお知らせするシリーズを始めました。自分の住んでいる地区の防災組織・状況をご確認ください。

六月に新支部長も決まり、名実共に今期の活動がスタート。秋にはスポーツ始め各種の行事が予定されています。次号が待遠くなるような話題の提供を期待しております。

(遠藤)